

コロナ禍における幼児体育の個別指導の 需要とその内容についての検証

A consideration on the demand of individual instructions and their contents for infant physical education in the COVID-19 epidemic

平井 博史¹⁾・磯部 壮至²⁾

Hiroshi Hirai and Masashi Isobe

抄録：近年、新型コロナウイルスの流行により、子ども達の運動する場所や機会が減少し、体力や運動能力の低下が問題視されている。その事態を改善する為に、筆者らは2020年12月～2023年1月までの期間に、幼児や小学生を対象として、講師が生徒1人に対して体育指導をする「個人レッスン」を実践してきた。日時・場所を決め「個人レッスン」の枠を設け、希望者を募り、申込者に対して事前に指導内容についてのカウンセリングをし、その要望に沿って体育指導をするという流れである。この個人レッスンの特徴は、指導内容を申込者へのカウンセリングで決定するという点にあり、指導を受ける子どもやその保護者の希望が、直接指導内容に反映される。

個人レッスン受講者のデータから、どの年齢の子どもが、何の種目の指導を希望しているのかを明らかにしていく。また、一般的に行われている複数人に対する体育指導と比べ、各種目の習得スピードは速いのか、効果が高いのかなど、様々な角度から検証し、考察をする。

キーワード：幼児体育、個人レッスン、コーディネーショントレーニング、コロナ禍

I. 緒言

筆者らは、ハドル・スポーツクラブに所属をしている。ハドル・スポーツクラブとは、幼児や小学生を対象として、コーディネーショントレーニングの理論に基づいた体育指導を提供している営利法人である。業務の内容は、主に幼児や小学生に対する体育指導であるが、それに加え、2020年度以前は、夏・冬・春休みの期間に、キャンプ（野外活動）、スキー教室、雪遊びツアーを実施してきた。希望者を募り、愛知県、岐阜県、長野県の宿泊施設に子ども達と講師で宿泊するといった内容のものである。

この業務内容は新型コロナウイルスの流行により一変することになった。事業の軸になっている、幼稚園・こども園・保育園などの施設における体育指導は継続ができたものの、キャンプやスキーなどの宿泊行事の実施については、断念せざるを得ない状況であった。

その代わりに企画し、始めたのが、夏・冬・春休みの期間に各地で体育の講座を開催するという内容のものである。この講座では、主催者側が講座を行う日時・場所・指導種目・対象学年を予め示し、申込者の募集をする。例えば「3月21日13:00～、跳び箱、対象：年少・年中・年長」といった形である。その講座の一環として、2020年度の冬期の講座から個人レッスンの枠を設けることにした。日時・場所のみ指定をして、指導内容はカウンセリングによって決定をする。カウンセリングについては、申込者に対し、当日指導を担当する講師から事前に電話をかけ、参加者の要望を聞き、指導をする種目や内容を決定していくという流れで進められた。

個人レッスンは、複数人に対して指導する講座に比べ、受講にかかる価格を高く設定している。しかし、実際には、数多くの子どもの達が個人レッスンを受講しており、ハドル・スポーツクラブの講座の中では、今でも人気の高い講座の1つである。

2020年12月～2023年1月までの期間に個人レッスンを受講した子どもの、学年や性別、カウンセリングにより決定した指導内容などを基に、様々な角度から分析をした。コロナ禍において、運動不足が嘆かれている子ども達やその保護者は、体育指導においてどのようなことを必要としているのか、また受講したことにより、できるようになりたいと希望した内容が実際にできるようになったのか否か、これまでの個人レッスンへの参加者のデータを基に検証し、考察をしていく。

¹⁾ 教育学部子ども教育学科 ²⁾ 株式会社ハドル・スポーツクラブ

II. 検証方法

1. 個人レッスン参加者のデータ開示

表1. 個人レッスン受講者の学年・性別・指導種目の内容

No.	開催時期	学年	性別	指導種目
1.	2020年12月	小学4年生	男	短縄(2重跳び)・鉄棒(逆上がり)
2.		小学2年生	男	走り方・ドッジボール(投げ方・捕り方・逃げ方)
3.		年長	男	〃
4.		年長	男	鉄棒(逆上がり)
5.		小学2年生	女	大ボール・小ボール(投げ方・捕り方・扱い方)
6.		小学4年生	男	短縄(2重跳び)・鉄棒(逆上がり)
7.		小学3年生	男	鉄棒(逆上がり)
8.	2021年3月	年中	女	短縄(回旋跳び)
9.		年長	男	鉄棒(連続逆上がり・空中逆上がり)・マット(倒立・側転)
10.		小学4年生	男	鉄棒(逆上がり)・マット(側転・倒立)
11.		小学2年生	男	走り方・ドッジボール(投げ方・捕り方・逃げ方)
12.		年長	男	〃
13.		小学4年生	男	大ボール(投げる・捕る・ボールつき・蹴る)
14.		小学2年生	男	走り方・鉄棒(逆上がり)
15.		小学1年生	男	短縄(様々な跳び方)・ドッジボール(速いボールを投げる)
16.		小学3年生	男	鉄棒(逆上がり)・投げ方(小・大ボール)・走り方・短縄・跳び箱
17.		年長	男	〃
18.		小学2年生	男	投げ方(小・大ボール)・ドッジボール・走り方
19.		小学2年生	男	〃
20.	2021年7月	小学4年生	女	マット(側転・倒立)・跳び箱・鉄棒・小ボール
21.		年長	女	マット(前転・後転)・跳び箱・鉄棒(逆上がり)
22.		小学1年生	女	マット(前転・後転・側転・倒立)・鉄棒(逆上がり)
23.		年中	女	〃
24.		小学2年生	男	マット(前転)・鉄棒(様々な技・逆上がり)
25.		年少	女	〃
26.		小学6年生	男	マット(バク転・バク宙)
27.		年中	男	マット(前転)・跳び箱・鉄棒(様々な技・逆上がり)
28.		2歳	女	〃
29.		小学3年生	男	マット(前転・後転)・鉄棒(逆上がり)
30.		小学1年生	男	マット(後転・側転・倒立)・鉄棒(空中逆上がり)
31.		年中	女	走り方・跳び箱
32.		小学5年生	男	鉄棒(逆上がり)・大ボール(蹴る・足で扱う)
33.		年中	男	鉄棒(様々な技)・マット(前転・後転)
34.		小学5年生	男	鉄棒(逆上がり)・跳び箱
35.	2021年8月	小学1年生	男	鉄棒(逆上がり)・大ボール(扱い方)
36.	2021年12月	年中	女	短縄(回旋跳び)・長縄・跳び箱
37.		小学1年生	男	鉄棒(地球回り・連続前回り)・マット(三点倒立)
38.		年長	男	短縄(回旋跳び)・鉄棒(様々な技)・跳び箱
39.		小学3年生	女	走り方・長縄・ダブルダッチ・マット(側転・倒立)・小ボール

40.		小学1年生	女	鉄棒 (逆上がり)・跳び箱・マット (側転・倒立)
41.		年中	女	〃
42.		小学3年生	男	鉄棒 (逆上がり)
43.		年中	女	マット (前転)・鉄棒 (様々な技)・短縄 (回旋跳び)
44.		小学5年生	男	短縄 (2重跳び・大逆手跳び)
45.		小学2年生	男	鉄棒 (様々な技)・短縄 (あや跳び・2重跳び)
46.	2022年1月	小学3年生	女	短縄 (回旋跳び・様々な跳び方)・跳び箱・鉄棒 (様々な技)
47.		年長	女	〃
48.		年長	男	走り方
49.		小学3年生	女	跳び箱
50.		小学2年生	男	マット (倒立・ブリッジ・バク転)
51.		年中	女	マット (前転) 跳び箱・短縄 (回旋跳び)
52.		年中	女	鉄棒 (逆上がり)
53.	2022年3月	小学1年生	女	マット (側転・倒立)・大ボール (扱い方)
54.		年中	女	短縄 (回旋跳び)・小・大ボール (扱い方)
55.		年長	男	走り方・鉄棒 (逆上がり)
56.		小学1年生	男	鉄棒 (前回り)
57.		小学3年生	男	走り方・マット (前転・後転)・鉄棒 (様々な回り方)
58.		小学1年生	男	マット (三点倒立)・鉄棒 (連続前回り)・短縄 (様々な跳び方)
59.		小学1年生	男	鉄棒 (逆上がり)・短縄 (様々な跳び方)
60.		2歳	女	鉄棒 (前回り)・跳び箱
61.		小学2年生	男	跳び箱・大ボール (投げ方)
62.		小学2年生	男	〃
63.	2022年7月	年長	男	鉄棒 (逆上がり)・跳び箱・短縄 (様々な跳び方)・大ボール
64.		3歳	女	ラダー・短縄・鉄棒 (様々な技)
65.		小学1年生	女	鉄棒 (様々な技)
66.		小学4年生	男	マット (ゆりかご・カエルの足打ち・肩倒立)
67.		年長	女	マット (側転)・鉄棒 (様々な技)・短縄 (回旋跳び)
68.		年中	男	マット (前転)・鉄棒 (様々な技)
69.	2022年8月	年長	男	走り方・鉄棒 (様々な技)
70.		小学2年生	女	マット (カエルバランス)・鉄棒 (逆上がり)
71.		年長	女	マット (ブリッジ・肩倒立)・鉄棒 (様々な技)
72.		年長	女	跳び箱・鉄棒 (様々な技)
73.		小学2年生	男	マット (三点倒立)・鉄棒 (連続前回り)・短縄 (様々な跳び方)
74.		年長	男	走り方
75.		小学5年生	男	野球 (投げ方・打ち方・捕り方)
76.		年中	男	走り方・サッカー
77.		年長	女	鉄棒 (逆上がり)・跳び箱・短縄 (回旋跳び)
78.		年長	男	走り方・鉄棒 (逆上がり)
79.	2022年12月	小学2年生	男	マット (倒立)・跳び箱・短縄 (様々な跳び方)
80.		年長	男	走り方・鉄棒 (様々な技)・ドッジボール (投げ方・扱い方)
81.		小学4年生	男	マット (側転・倒立)・鉄棒 (逆上がり)
82.		小学4年生	男	〃
83.		年長	女	短縄 (様々な跳び方)・ドッジボール・バレーボール

84.		年中	男	短縄 (回旋跳び)・跳び箱・鉄棒 (様々な回り方)・大ボール
85.		小学4年生	男	マット (側転・倒立)
86.		小学3年生	男	鉄棒 (様々な技)・短縄 (様々な跳び方)
87.		年中	女	〃
88.	2023年1月	年中	男	走り方・短縄 (様々な跳び方)
89.		年長	女	小・大ボール (扱い方)・跳び箱・短縄 (様々な跳び方)
90.		小学1年生	男	跳び箱・鉄棒 (逆上がり)・短縄 (あや跳び)
91.		年長	男	走り方・短縄 (様々な跳び方)・小・大ボール (扱い方)
92.		3歳	女	短縄 (回旋跳び)・跳び箱・鉄棒 (様々な技)
93.		年長	女	マット (前回り)・跳び箱・鉄棒 (逆上がり)

2020年12月から2023年1月までの期間に、実際に個人レッスンに参加をした者のデータを記したのが表1である。93名が希望の申し込みをして、指導を受けたこととなる。No. 2とNo. 3など指導種目が同じ(〃)になっているのは、兄弟や友達と2人で指導を受けた参加者である。(希望があった場合には少人数でのレッスンも受け付けていた。)また、リピートして複数回受講している人もいる。指導時間は45分間で、場所については、名古屋市天白区の貸しホール・犬山市の幼稚園のホール・各務原市の幼稚園に隣接する教室を使用して行った。なお、93名のサンプルの内、76名は名古屋市天白区の貸しホールで個人レッスンを実施したものである。

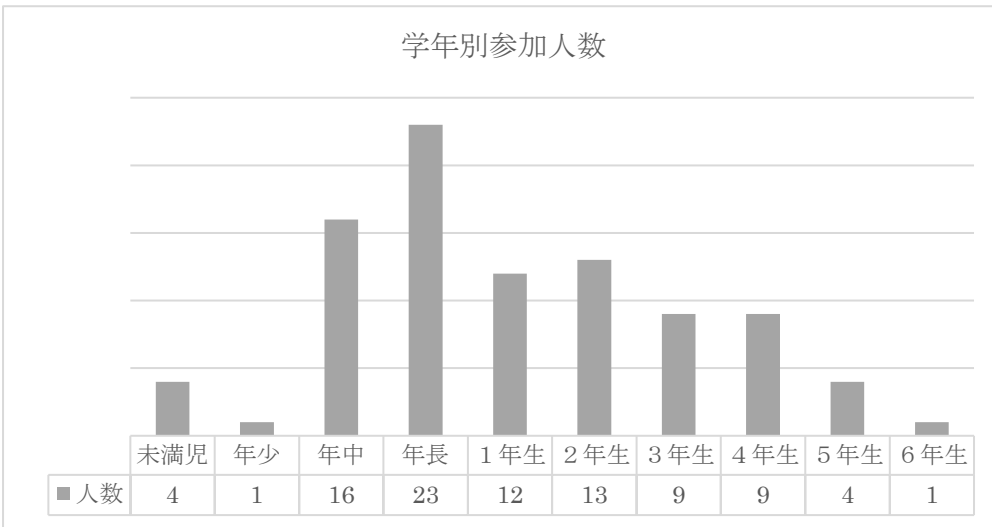
指導を担当するのは筆者らを含めたハドル・スポーツクラブの講師で、コーディネーショントレーニングの理論を基に参加者の要望に沿ったカリキュラムを組み、指導を行った。コーディネーショントレーニングとは、7つのコーディネーション能力を伸ばすことにより、子ども達が自分の身体をイメージ通りに動かすことができるようにすることで、様々な運動やスポーツに順応しやすい身体づくりをしていくことに着目した神経系に視点を置いたトレーニングである。7つのコーディネーション能力については表2に記した通りである。楽しく指導に参加し、無理なく運動能力を伸ばすというのが、コーディネーショントレーニングの特徴であり、反復練習の繰り返しを子ども達に強いることはなるべく避けるようにしている。しかし個人レッスンについては、短時間で、参加者の要望に応える必要があるため、普段の指導に比べ、逆上がりなど、目標とした種目そのものの練習を多く取り入れて指導をする必要があった。

表 2. 7つのコーディネーション能力

リズム能力	イメージ通りに身体を動かすことを可能にする能力 真似をする、またはリズムに合わせて身体を動かす能力
連結能力	身体の様々な部分を同時に思い通りに動かすことができる能力 または2つ以上のことを同時に行う能力
変換能力	状況に応じて身体の動きを切り換えることを可能にする能力
反応能力	合図に正確に素早く対処できる能力
分化能力	道具や用具を適切な力で正確に操作できる能力
バランス能力	身体の体勢が崩れても動作を続けることを可能にする能力
定位能力	自分と相手や物との位置関係や距離感覚を正確につかむことを可能にする能力

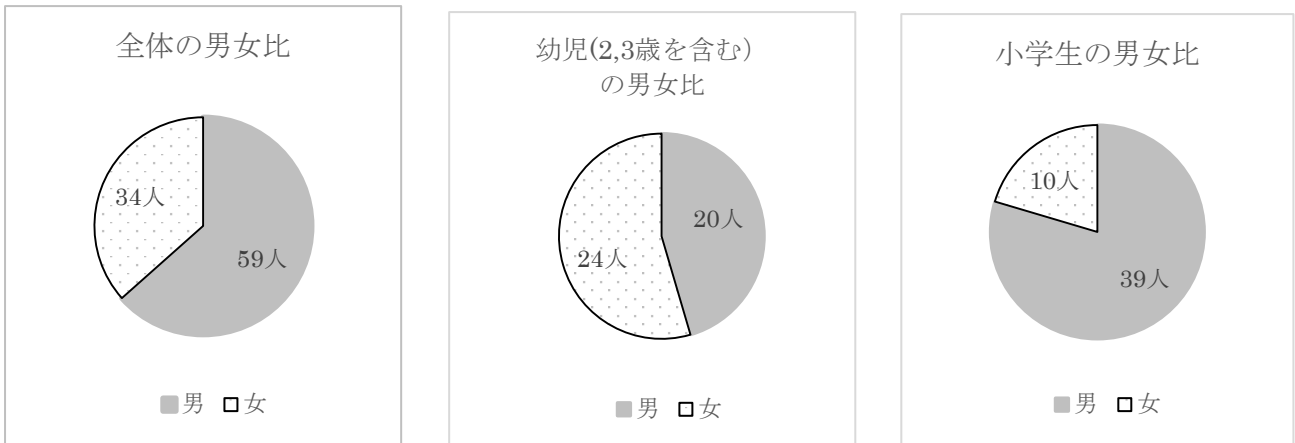
2. 学年別参加人数と男女比についての考察

図1. 個人レッスン参加者の学年・性別・指導種目の内容



学年別の参加人数を見てみると、年長組が一番多く、23名という結果であった。また、年中組から小学4年生にかけての割合が9割を超えていることがわかる。実際指導をしていると、運動が苦手なそれを克服したいという考えでの参加者が多い印象である。このデータから考えると、年中組の頃から子どもの運動能力の良し悪しを親が判断できるようになり、それを改善するために個人レッスンへ申し込みするといった、親目線での考えを読み取ることができる。また小学校入学前にできないことを克服したい、または更に運動能力を伸ばしておきたいという考えが保護者にあるとも予測ができる。小学校入学後には体育が1つの教科として評価の対象となるので、学校からの成績の通知を受けて、プロの体育講師の教えを乞おうとの考えに至ることもあると考えられる。一方で、学年に関わらず、「とにかく楽しく動きたい」、「子どもに動く機会を少しでも多く提供したい」、「好きで得意な種目を更に強化したい」といった参加者の方がいるのも事実である。

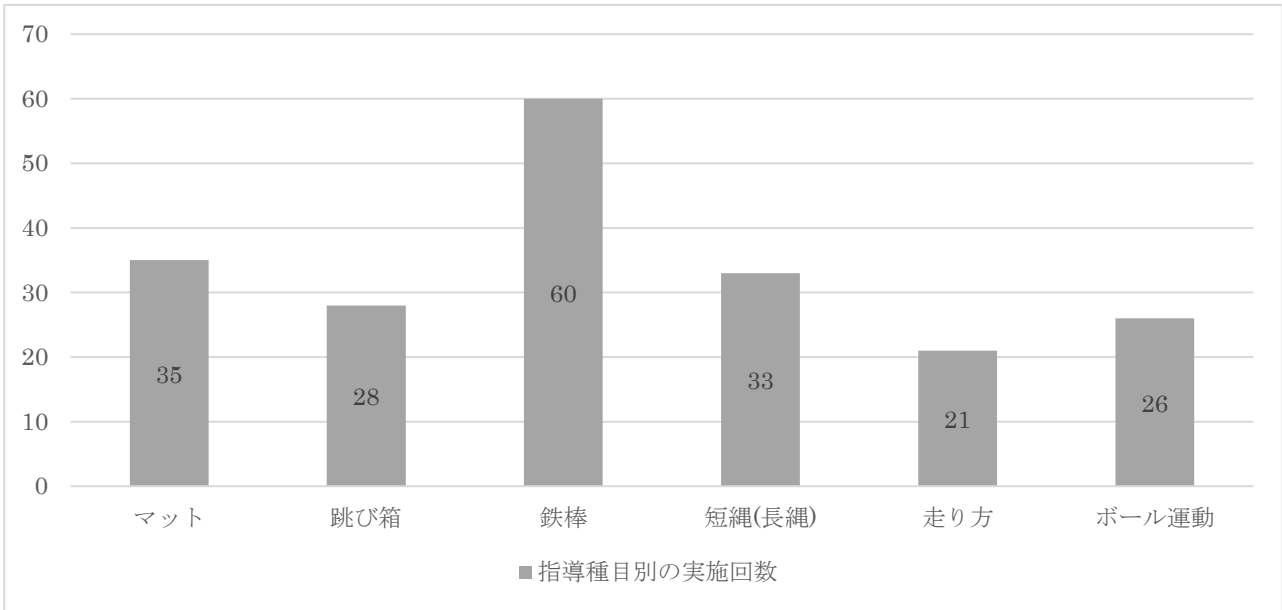
図2. 個人レッスン参加者の男女比



男女比については、全体としては男の子の参加者が多かったが、幼児・小学生で比べてみると、幼児以下は、女の子が多く、小学生に関しては圧倒的に男の子が多いという結果であった。小学生になると、男の子は運動ができることを求められる傾向にあるのであろうか。保護者主導の申し込みであれば、運動ができる子であってほしいという親の意思も含まれている可能性が高い。個人レッスンのカウンセリングをしていると、子ども自身が何の運動をしたいということよりも、保護者が子どもに対し、苦手な種目を克服させたいという思いが強いと感じることが多い。特に個人レッスンの申込者は、通常の講座への申込者よりも、そのような傾向が強いように感じる。一概には言えないが、教育熱心な保護者が個人レッスンに申し込みをするケースが多く、そこに複数の需要があるのではないかと推測ができる。小学生以上の女の子に対しては、運動以外の習い事にも需要が分散されている可能性が高い。

3. 種目別の実施回数の比較からの考察

図3. 個人レッスンの参加者が受講をした指導種目別の実施回数



個人レッスン参加者への事前のカウンセリングで決定をし、実際に指導をした内容を、図3のように6つの指導種目に分類して回数の比較をした。1人の参加者が複数の種目を選択している場合が多い為、種目別の回数の合計は参加人数を大きく上回っている。なお、6つの指導種目の詳細は下記の通りである。

- マット (前転・後転・側転・倒立・三点倒立・バク転・バク宙)
- 跳び箱 (開脚跳び・閉脚跳び・台上前転)
- 鉄棒 (前回り・足抜き回り・反対回り・逆上がり・連続逆上がり・空中逆上がり・連続前回り・地球回り)
- 短縄 (回旋跳び・後ろ跳び・かけあし跳び・あや跳び・交差跳び・側振跳び・2重跳び)
- 長縄 (8の字跳び)
- 走り方 (きれいなフォームで走る・速く走る・スタートを早くきる・コーナーを上手く回る)
- ボール運動 (小ボール・大ボール・ドッジボール・野球・サッカー・バレーボール)

カウンセリングの話の中では、「俊敏に動けるようになりたい」、「直ぐに転んでしまうので改善をしたい」というような抽象的な希望もある。しかしながら、実際に希望される指導内容として挙がるのは、目で見て形がわかるものが多い。

図3からも分かるように、鉄棒は特に希望の多い種目である。6つの指導種目の中で「できる・できない」が一番明確にわかり、誰が見ても一目でその判断ができる。それ故にオーダーしやすいという側面もあると感じる。鉄棒の中でも逆上がりができるようになりたいという希望が多い。図5の通り、鉄棒を選んだ人の中で、逆上りを希望していない人はたった5名であった。やはり、逆上がりは運動ができることのひとつの目安として捉えられているようである。次にマットの実施回数も多く、前転・側転・倒立の指導を希望される方が大半を占める(図4参照)。倒立については、小学校の運動会で組み立て体操を行う際に、2人組で倒立をするので、足がパートナーの元までしっかりと上がるようにしたいという要望が複数あった。短縄は回旋跳びができるようになりたいということと、既に跳べるが跳べる技の種類を増やしたいという2パターンに分けられる。

跳び箱は主に開脚跳びで高い段数が跳びたいという希望、走り方については綺麗なフォームで速く走りたいという人が多い。ボール自体の扱い方から各スポーツに至るまで幅広い範囲をまとめたボール運動は、ドッジボールが上手になりたいという意見が多くみられた。

種目別の実施回数を分析して表にする際に、難なく6つの指導種目に分類ができたことは驚きであった。

小学校の体育で実施されているオーソドックスな指導種目の希望が多いのは、体育がひとつの教科として存在しており、個人が評価され、成績がつけられるということに関連していると考えられる。それ以外に、何を指導内容として希望するのかと考えると、他に思いつくものがないということも言えるのかもしれない。

図4. マットを希望した人の種目別割合

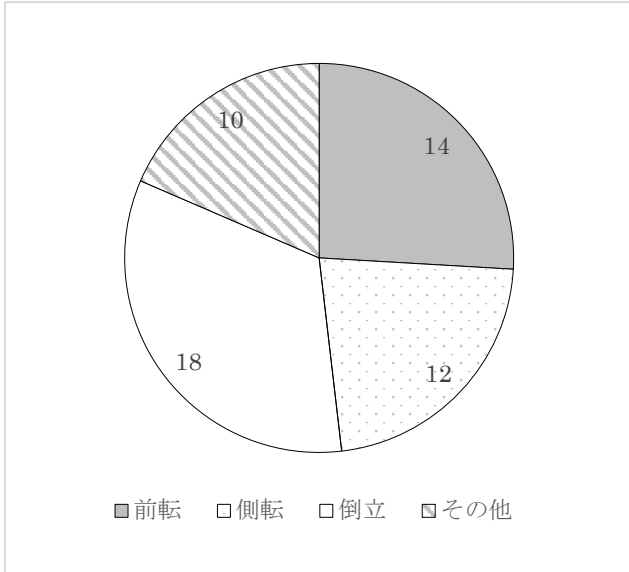
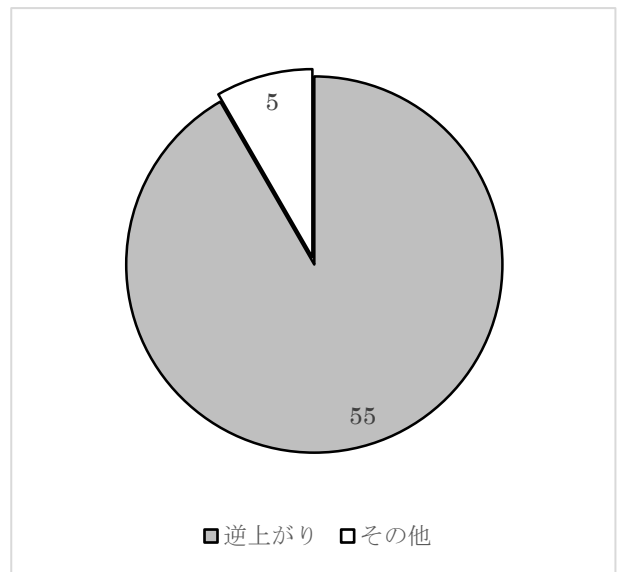


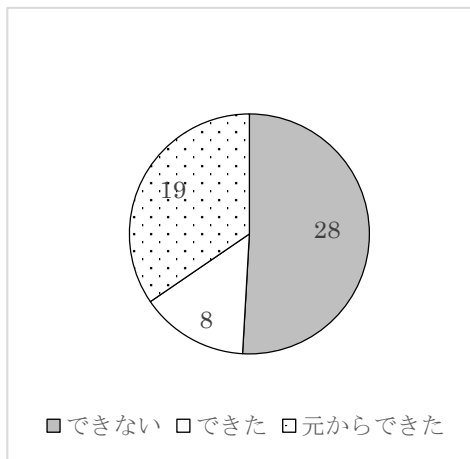
図5. 鉄棒を希望した人の種目別割合



4. 指導結果とカリキュラムの詳細

個人レッスンを受講して希望した種目の内容ができるようになったのか否かを確認していくことにする。表1を見てわかるように93名の受講者は様々な指導種目のレッスンを希望している。各指導種目ができたかできていないかを判断をする基準をどこに設けるのかは非常に難しい。例えば側転を例にとって考えてみると、腕を着いて回ることはできるが足が伸び切っていない、これをできたと見なすのかどうかは、判断をする人の感覚によって違ってくる可能性が高い。マットの前転・走り方・短縄跳び・ボールの扱い方なども同様である。そこで、誰もができたか否かを判断ができ、なお且つカウンセリングで希望をした人が非常に多かった、鉄棒の逆上がりを取り上げ、その成果を見ていくことにする。講師が受講者の体に触れることなく回れた場合にできたと見なす。元から逆上がりができるでいて、更に上手になりたいという希望で受講した人の成功はカウントしない。結果は図6の通りである。

図6. 逆上がりが初めてできた人の割合



鉄棒の逆上がりを希望した人の内、19名は元からできるが更に上手になりたいという人で、逆上がりができない状態で受講した人が36名だった。その内、8名の人々が初めて逆上がりができるという結果であった。個人的にアドバイスをしながらその子に合った指導ができるとはいえ、45分の指導時間でできるようにさせることは困難である。しかし、複数人に対して指導をする場合と比べ、個人レッスンの受講者は数多く希望した種目の練習ができるため、その分上達が早いと考えられる。逆上がりに限らず、他の種も同様である。実際にその子、個人に対してアドバイスをしながら、繰り返し練習することで、上達していると現場でも感じる事が多かった。また、見学をしている保護者に対しても練習方法などのアドバイスができるので、そのアドバイスを基に練習をして、後日、できるようになったという報告をくれる人も多い。

子どもや保護者から、その場で具体的な質問を受けることができることも、メリットの1つである。複数人での指導の際には、友達と話しをしたり、ふざけたりしてしまう子ども1対1の指導ではそれができないので、落ち着きが無いような子にも合っているのかもしれない。

2歳から小学6年生まで幅広い学年の子ども達が個人レッスンを受けており、その中でも運動やスポーツが得意な子や苦手な子がいるので、求められることは様々で、できるようになるに越したことはないが、アドバイスや練習方法のレクチャーを含め、受講者の要望に応えることが、個人レッスンにおいては、より重要であると考えられる。

その要望に応えることで、満足感をもってもらったのか、トータル6回個人レッスンを受講した子もいる。カウンセリングで決めた内容をレッスンの最中や、その場でできなければ家で練習をして習得し、できることが毎回増えていった。この受講者の6回分の個人レッスンの指導内容は次の通りである。

(準備体操・準備運動・主の運動への導入の部分は省略)

【 2021年3月 】

・鉄棒 (逆上がり, 連続逆上がり, 空中逆上がり) ・マット (側転, 倒立)

【 2021年7月 】

・鉄棒 (連続逆上がり, 空中逆上がり) ・マット (後転, 側転, 倒立)

【 2021年11月 】

・鉄棒 (地球回り, 連続逆上がり, 懸垂逆上がり) ・マット (三点倒立)

【 2022年3月 】

・鉄棒 (連続逆上がり, 連続前回り) ・マット (三点倒立)

【 2022年8月 】

・鉄棒 (連続前回り, 前回り→足抜き回り→反対回り→逆上がり ※足を着かずに) ・短縄 (2重跳び)

【 2022年12月 】

・跳び箱 (開脚跳び, 閉脚跳び) ・短縄 (2重跳び) ・マット (三点倒立, 倒立, 倒立前転)

この男の子は年長組から小学2年生にかけて6回連続で個人レッスンを受講し、できることが毎回増えていった。鉄棒に関しては、教えられる種目が無いほどに上達をして、できるようになる度に報告をしてくれるのは、毎回とても嬉しい知らせであった。上記した種目に関しては全て習得済みである。

Ⅲ. まとめ

幼稚園教育要領、保育所保育指針、こども園教育・保育指針の領域の「健康」のねらいには、明るく伸び伸びと運動することや、自分の体を十分に動かし、進んで運動をしようといったことがうたわれているが、コロナ禍において子ども達が進んで運動ができる場所が減少してしまった。運動不足が懸念され、親がコロナ流行以前より更に、子ども達に対して運動できる環境を準備してあげなければならない状況が続いている。筆者らも体育指導に関わる教育者として、子ども達が体育指導を受けられる機会を増やそうと考え、ハドル・スポーツクラブでは今まで行っていなかった、個人レッスンを開講する運びとなった。子ども達や保護者と十分な時間をとり、話をしながら個々に合った指導を提供することのできる個人レッスンは、今の時代に合っているのではないかと考える。カウンセリングをし、個人の要望に応えるという点で、より、その子や保護者のニーズに合った指導ができ、例え「できる」ことにまで至らなかったとしても、上達することで動くことの楽しさを知り、運動をする機会が増え、更に上達をするという良い循環が生まれるのではないかと。運動能力の向上と共に人と人との繋がりがより重要と考えられる昨今では、今後もこの個人レッスンに引き続き需要があるのではないかと結論付ける。

一方で、課題も多く見つかった、子ども達からは「～ができるようになりたい」、保護者からは「～をできるようにさせたい」という想いを感じるが多かった。楽しく動くことだけでなく、逆上がりなどの種目をできるようにさせることの重要性を強く実感することとなった。子ども達に楽しく指導に参加してもらいながら、前転・側転・倒立・開脚跳び・逆上がり・縄跳びなどの種目を習得させること、その大切さや重大さに改めて目を向けることができた。

Ⅳ. 今後に向けての課題

個人レッスン受講者のデータを検証・考察をして、子ども達や保護者から、各種目を習得したい、させたいという意欲を強く感じた。その想いに応えられるよう、体育指導者も指導力向上に努めることが不可欠である。指導の形態については、様々であるが、今回検証をした個別指導は体育の分野でも大きな役割を担ってくるのではないかと考える。1人1人に手厚い指導ができることがその理由であるが、その一方で、指導を提供する機会を多くもつには、場所や体育講師の確保が必要であり、それは簡単なことではない。複数人への体育指導と個人レッスンをバランスよく提供できるように考え、多くの子ども達やその保護者の方々が満足のいく体育指導を受けられるように今後も考えていきたい。

参考文献

- 1) 平井博史・南牟禮豊三 2012 ベースボールコーディネーショントレーニング 全国書籍出版
- 2) 厚生労働省 (平成 29 年告示) 保育所保育指針 フレーベル館
- 3) 文部科学省 (平成 29 年告示) 幼稚園教育要領 フレーベル館
- 4) 文部科学省 (平成 29 年告示) 幼保連携型認定子ども教育・保育要領 フレーベル館